

夏季保育の理論と實際

ベルリン ルート・ヴァイランド博士

夏季保育は、現在吾々の緊急な現實的課題となつた。このときに當つて、ドイツのルート・ヴァイランド博士は獨逸フレイベル會機關誌『幼稚園』Kindergarten 本年六月號に『夏季保育——託兒所の重要問題の一つ』と題して興味深い一文を寄せてゐる。以下はその概括的譯述である。(倉橋生)

最近の十年間には、幼兒の保健問題は、吾々の多大な關心事であつたが、今日この問題は漸く閑却視され出した様である。大戦及び戦後のゼネレーションに試みられた保健の效果は、吾々の既に熟知せる所であるが、當時は幼兒保健の全般的統制がやつと始まつたばかりであつたので、未だ適確に數字で以てその効果を立證するには至らなかつた。而して今日の幼兒保健の實行に破綻の生じ始めたことは見逃し得ない事實である。これが原因として吾々は保健上の諸施設内部の缺陷、統制の弛緩、素人の無計畫的な企圖等を擧げることが出来る。

もちろん、中央都市や地方に於て、かゝる保健施設確立のための努力は拂はれてゐる、が併し最近この種の施設に送られる幼兒の數が急激に低下しつゝあることは否定出来ないであらう。吾々は、まづ幼兒の保健が現在充分に遂行されてゐない、といふ目前の事態に注目すべきである。この事實を以てするとき、吾々は何よりも先づ、健康的にも社會的にも危険にさらされてゐる幼兒を收容すべき——都市及び地方に於ける託兒所を問題としなければならぬ。しかし、在來吾々はこの種の設備がたゞ衛生上の缺陷さへ持つてゐなければ、それに甘んじてゐた様である。けれども、今やかゝる施設は、

社會的及び教育的効果とは別に、積極的に健康増進の役割を果すやうにならなければならぬ。「イェーラーケ」(ベルリン北西區四十號モルトケ街五番地にある、青少年保育療養のための國立協働組合)の主事シュナイダー博士は——吾々は現在極度の經濟的苦惱に當面してゐるが、しかし大自然の與へる光、大氣、水は實に無限である、青少年の保健問題が經費の關係上閑却されてゐる今日、吾々はかゝる無限の自然を利用して、夏季保育の確立に邁進すべきである。

夏季保育とは、簡単な且つ廉價な設備内に出来るだけ多くの幼児を收容して、戸外の自然の環境裡に於て、遊戯や休息を與へ、充分な保育に資すべきものである——といふ旨を説いてゐる。

勿論、この主張を具體的に實行する方法は種々様々であらう。休暇中の旅行、遊戯場に於ける組織的保育、シュニーレーパー式遊園地に於ける諸設備の使用、遊戯のための公人乃至私人の庭園の利用、地方に於ける鹽泉浴療養、病院及び教化施設との聯合による幼児のための横臥療養、幼稚園託兒所に於ける戸外空氣保養の如き、即ちそれである。一例を擧げると——ドイツ西部の二三の大都會で託兒所内の夏季保育の實施案が決議された。次いで、日光浴用の衣類が調製された。

これには、都市當局のはからひにより、失業婦人の裁縫所が利用された。更に、失業青年達の自發的奉仕、又は職業紹介所の配慮によつて遊戯場や砂箱が作られた。託兒所が郊外に適當な場所を持たないときは、町の一隅又は遊戯場の一角が使用されるのである。幼児達を移動させるには、當該地方の協働組合の支持がある。すべての幼児には晝食が供せられた。

失業せる保姆達も自發的奉仕者として、其處に参加し、都市の醫者は夏季保育講習會に出席して、この有益な事業に加はる準備をした。もつとも、吾々の注意しなければならぬことは、幼児の健康状態は決して一樣ではないから、日光浴療養を行ふ場合、各人の個性を調べて療養の反應を批判的に觀察すべきであらう。かくするとき、吾々は多數の健康上の危険にさらされてゐる幼児を保育して、吾々の民族的勢力を増進せしめ得ることは疑はない。従つて、吾々は先づこの夏季には、ドイツに於けるすべての託兒所のせめて四分の一に於てでも、この夏季保育を實行し、實に來年はこれを二倍にすべきではなからうか。かゝる保健設備のない所では、託兒所や幼稚園に關係せる人々が、夫々その地に於て會合し、こ

れが對策を協議すべきであらう。勿論、その方法は地方によつて相違するであらうが、一般的に新聞社や疾病扶助會はこれに救援を送らねばならぬ。勞働省から各州の社會局に發せられた一九三二年四月七日付の廻文によると、現在第四回緊急指令の發布されてゐるときにも拘らず、各疾病扶助會はその資金を一般的疾病豫防のために使用して差支へない旨が明瞭に指摘されてゐる。

現在では、幼稚園や託兒所の維持は極めて困難である、が併し夏季保育の實施は、民衆の間にかゝる施設に對する理解を深め、その重大な任務の遂行を容易にするであらう。既に各地の託兒所では、模範的な保健施設のための準備が始まつてゐる。それによると、一日に數時間でもいゝから、家庭から通つてゐる幼兒のために臨時の保健療養を行ふことになつてゐる。夏季保育實施の萌芽は、かくの如く至る處に見られる。この時に當つて、上記『イエーラーク』は、その所屬の公的、私的組織及び職業組合が夏季保育に興味を持つやうに努め、既に喜ぶべき反響を得た。『イエーラーク』は現在各地からの報道を待ちつゝある。

園藝注意書 (デュツセルドルフ行政區乳兒保健聯盟出版)

いかなる幼稚園、託兒所にも庭園地がなければならぬ。蓋し、新鮮な空氣の中で運動することは、身體を強壯にし、病氣に對する抵抗力を作るであらう。植物を培養することは、幼兒の義務及び責任感情を喚起し、忍耐心や注意力を養成し自然美に對する感受性を養ふものである。兒童が學校で得た知識は、かゝる勤勞によつて深められ、擴められ、かくして多くの實際上の經驗を獲得し、田園勞働に對する愛校心と理解力を形成するであらう。

庭園地が幼稚園や託兒所から餘りかけ離れてゐると、往復のために無益な勞力や時間を使ふから、近い方がよろしい。幼兒ならば、家の近くのこぢんまりとした庭又は遊戯場の一部分を利用すれば充分である。

この際、兒童達自身の手で作成した園藝プランが絶対に必要である。すべての兒童には、共通の花壇を培養せしめて、

彼等の興味と責任感を喝起する一方、めい／＼自分だけの小さな花壇を與へて、自由な獨立的園藝に従事せしめる必要がある。

この際、保姆の正しき指導により、兒童がその土地を完全に利用し、勤勞と遊びごととを混同しないやうに氣を付けねばならぬ。従つて保姆たるものは、園藝の基本的技術——道具の取扱方、土地の手入れ方等を體得してゐなければならぬ。その他、兒童との接觸によつて漸次その經驗を豊富にすることにならう。保姆達は立派な園藝書、實際上の忠言者、園藝に関する教程目録等について、播種や培養の時季と方法を學ぶであらう。園藝道具の選擇に關しては良質のものが好ましい。良質のものほちがよいから、従つて經濟的である。道具は、兒童の體力や體格を考慮して、それ相應の大きさのものでなければならぬ。

庭園に空地があれば、園亭を作るとか、或ひはテントを張るとかして、風雨の際に兒童を收容しなければならぬ。便所は近くにある方が好ましい（泥炭敷きの乾燥式がよい）園藝道具や皮前垂等は強固な箱に納め、又その箱を腰掛にするならば、實に合理的である。仕事と休養は規則的に交代し、兒童の過勞を避けねばならぬ。遊戯場や運動場が、庭園地に隣接してゐるならば、それは大變好ましいことである。